

51. タバコ栽培における生分解性マルチの利用

福島県たばこ試験場・平成11年度成績概要

- 1 部門名 特用作物—タバコ—その他 分類コード 06—01—99000000
2 担当者 吉岡邦雄
3 要旨

生分解性マルチは栽培終了後、そのまま畑に鋤き込むと微生物により分解されるため、圃場からの除去作業が必要ない。今回は生分解性マルチ5種類と透明ポリマルチ、シルバーマルチ(タバコ栽培慣行)を用いてタバコ栽培への適応性を検討した。

(1) ポリカプロラクトン系マルチ2種類の地温は、最も地温が高かった透明ポリマルチに近い地温経過を示した。ポリブチレンサクシネート／アジペート系マルチの地温はポリカプロラクトン系よりやや低く、成分がデンプン＋PVA(ポリビニールアルコール)でフィルムの色が透明に近いマルチと同程度であった。成分がデンプン＋PVAでフィルムの色が乳白色のマルチの地温はシルバーマルチより低く経過し、供試したマルチで最も低かった。

(2) ポリカプロラクトン系マルチ2種類は縦に裂けやすい傾向があるものの、地際からの破れは少なかった。デンプン＋PVA系マルチ2種類とポリブチレンサクシネート／アジペート系マルチは6月下旬までに地際から全体の30～80%が破れたため栽培上問題があった。

(3) 以上の結果から、今回供試した生分解性マルチでは、地温や強度の面からポリカプロラクトン系マルチの実用性が高いと判断された。しかし、慣行のマルチに比べタバコの10a当たり販売代金がやや少なくなる傾向であった。